

岡崎市版レッドリストの概要

1 調査体制等

平成 20 年度に 10 名の学識経験者で構成されます「岡崎市自然環境調査検討委員会」を設置し、調査対象動植物の評価基準・方法及び調査内容等について検討を行いました。

岡崎市自然環境調査検討委員会 委員名簿

専門分野等	委員
哺乳類	<small>こやすかずひろ</small> 子安和弘（愛知学院大学歯学部講師）
鳥類	<small>こじまよしたけ</small> 小嶋良武（岡崎野鳥の会）
爬虫類	<small>やべ たかし</small> 矢部 隆（日本カメ自然誌研究会代表）
両生類・魚類	<small>ながい ただし</small> 永井 貞（岡崎市動植物調査会）
昆虫類	<small>おおひらひとお</small> 大平仁夫（岡崎国立共同研究機構生理学研究所名誉技官）
	<small>すぎさかよしのり</small> 杉坂美典（日本鱗翅学会）
クモ類	<small>おがたきよと</small> 緒方清人（日本蜘蛛学会評議員）
貝類	<small>きむらしょういち</small> 木村昭一（日本貝類学会評議員）
植物類	<small>せんがとしゆき</small> 千賀敏之（岡崎市動植物調査会）
	<small>あだちふみゆき</small> 安達史幸（岡崎市動植物調査会）

2 レッドリスト（案）に関する市民意見の募集

このレッドリストを作成するにあたって、昨年 7 月に環境審議会の意見を聴きとりまとめましたレッドリスト（案）に関して市民の皆さんから意見募集しました。この意見を参考にしながら検討を進め、このたびレッドリストを作成しました。（レッドリスト（案）に関する市民意見募集結果と市の見解については、別紙のとおり）。

3 岡崎市版レッドリストの概要

(1) 植物の概要

今回、岡崎市版レッドリストに掲載された植物の種数は、表1のとおりです。

このレッドリストでは、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類）が114種となっています。また、現時点での絶滅危険度は小さいものの、生育条件の変化によっては絶滅のおそれのある種に移行する要素を有する種（準絶滅危惧）として70種、市内では既に絶滅した種として34種を掲載しています。

また、絶滅のおそれの程度を評価するに足る情報が不足している種として12種を掲載しています。

表1 岡崎市版レッドリスト（案）掲載種数（植物）

評価区分 対象	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種			小計	準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計
		絶滅 危惧 ⅠA類 (CR)	絶滅 危惧 ⅠB類 (EN)	絶滅 危惧 Ⅱ類 (VU)				
維管束植物	34	7	23	84	114	70	12	230

(2) 動物の概要

今回、岡崎市版レッドリストに掲載された動物の種数は、表2のとおりです。

このレッドリストでは、絶滅のおそれのある種（絶滅危惧Ⅰ類及びⅡ類）が98種であり、その内訳は、哺乳類が7種、鳥類が23種、両生類が2種、魚類が3種、昆虫類が33種、クモ類が22種及び貝類が8種となっています。また、現時点での絶滅危険度は小さいものの、生息条件の変化によっては絶滅のおそれのある種に移行する要素を有する種（準絶滅危惧）として、哺乳類2種、鳥類17種、両生類5種、魚類6種、昆虫類56種、クモ類4種及び貝類6種を、さらに、市内では既に絶滅した種として哺乳類3種、魚類2種及び昆虫類7種を掲載しています。

また、絶滅のおそれの程度を評価するに足る情報が不足している種として、哺乳類2種、鳥類2種、爬虫類2種、両生類1種、魚類3種、昆虫類5種、クモ類1種及び貝類2種を掲載しています。

なお、国内及び愛知県における生息状況から、本市において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群を「地域個体群」として鳥類で2個体群掲載しています。

表2 岡崎市版レッドリスト掲載種数（動物）

評価区分 対象	絶滅 (EX)	絶滅のおそれのある種				準絶滅 危惧 (NT)	情報 不足 (DD)	計	地域 個体群 (LP)
		絶滅 危惧 ⅠA類 (CR)	絶滅 危惧 ⅠB類 (EN)	絶滅 危惧 Ⅱ類 (VU)	小計				
哺乳類	3	2	3	2	7	2	2	14	0
鳥類	0	4	7	12	23	17	2	42	2
爬虫類	0	0	0	0	0	0	2	2	0
両生類	0	0	0	2	2	5	1	8	0
魚類	2	0	2	1	3	6	3	14	0
昆虫類	7	4	5	24	33	56	5	101	0
クモ類	0	3	5	14	22	4	1	27	0
貝類 (小計)	0	4	0	4	8	6	2	16	0
陸産	0	1	0	3	4	3	2	9	0
淡水産	0	3	0	1	4	3	0	7	0
計	12	17	22	59	98	96	18	224	2

【岡崎市版レッドリストの評価方法及び基準】

(1) 植物

植物については、標本あるいは文献等により、岡崎市に確実に生育している（いた）と判断された種のうち、意図的・非意図的にかかわらず市内に移入された種及び一過性の確認種を除いて、収集された情報を基に全国的な分布の状況等を勘案して総合的に判断・評価を行い、別紙1の評価区分基準により絶滅のおそれの程度を判定しました。

(2) 動物

動物については、標本あるいは文献等により、岡崎市に確実に生息している（いた）と判断された種のうち、意図的・非意図的にかかわらず市内に移入された種及び一過性の確認種を除いて、収集された情報を基に全国的な分布の状況等を勘案して総合的に判断・評価を行い、別紙2の評価区分基準により絶滅のおそれの程度を判定しました。

また、「絶滅」の評価については、「過去に確実に生息していた種」と判断する文献や標本の整備状況及び移動能力が分類群毎に異なることから、表3に示す要件により判定しました。

表3 過去の生息種の要件

分類群	内 容
哺乳類	縄文時代草創期以降の確認記録があるもの。一過性の種、移入種、後期更新世以前の化石種は除外。
鳥 類	継続（経年的）確認記録がある種。迷行的に記録される種など一過性の種は除外。
爬虫類	標本等の確実な生息記録がある種。
両生類	標本等の確実な生息記録がある種。
魚 類	標本等の確実な生息記録がある種。
昆虫類	標本等の確実な生息記録がある種。
クモ類	標本等の確実な生息記録がある種。
貝 類	標本等の確実な生息記録がある種。

別紙 1 岡崎市版レッドリストの評価区分基準（植物）

区分及び基本概念		定性的要件		
絶滅 Extinct (EX) ・ 野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	岡崎市ではすでに絶滅したと考えられる種。 野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続している種。	過去に岡崎市に生息したことが確認されており、岡崎市において少なくとも野生ですでに絶滅したと考えられる種（飼育・栽培下では存続している種を含む）。 【確実な情報があるもの】 1 今回の調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認された。 【情報量が少ないもの】 2 過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。		
絶滅危惧 I 類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種。 【確実な情報があるもの】 1 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 2 既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 3 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 4 ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 5 それほど遠くない過去(30年～50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧 I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
			絶滅危惧 I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 1 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 2 大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 3 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 4 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。		
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	次に該当する種。 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 1 個体数が減少している。 2 生息条件が悪化している。 3 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 4 交雑可能な別種が侵入している。		
情報不足 Data Deficient (DD)	評価するだけの情報が不足している種。	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性(具体的には、次のいずれかの要素)を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。あるいは確認例が極めて少なく、希少であるか否かも不明な種。 1 どの生息地においても生息密度が低く希少である。 2 生息地が極限されている。 3 生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等)。 4 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。		

別紙2 岡崎市版レッドリストの評価区分基準（動物）

区分及び基本概念		定性的要件		
絶滅 Extinct (EX) ・ 野生絶滅 Extinct in the Wild (EW)	岡崎市ではすでに絶滅したと考えられる種。 野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続している種。	過去に岡崎市に生息したことが確認されており、岡崎市において少なくとも野生ですでに絶滅したと考えられる種（飼育・栽培下では存続している種を含む）。 【確実な情報があるもの】 1 今回の調査や記録により、すでに野生で絶滅したことが確認された。 【情報量が少ないもの】 2 過去50年間前後の間に、信頼できる生息の情報が得られていない。		
絶滅危惧 I 類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。	次のいずれかに該当する種。 【確実な情報があるもの】 1 既知のすべての個体群で、危機的水準にまで減少している。 2 既知のすべての生息地で、生息条件が著しく悪化している。 3 既知のすべての個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 4 ほとんどの分布域に交雑のおそれのある別種が侵入している。 【情報量が少ないもの】 5 それほど遠くない過去(30年～50年)の生息記録以後確認情報がなく、その後信頼すべき調査が行われていないため、絶滅したかどうかの判断が困難なもの。	絶滅危惧 I A 類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
			絶滅危惧 I B 類 (EN)	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。
絶滅危惧 II 類 Vulnerable (VU)	絶滅の危険が増大している種。 現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。	次のいずれかに該当する種 【確実な情報があるもの】 1 大部分の個体群で個体数が大幅に減少している。 2 大部分の生息地で生息条件が明らかに悪化しつつある。 3 大部分の個体群がその再生産能力を上回る捕獲・採取圧にさらされている。 4 分布域の相当部分に交雑可能な別種が侵入している。		
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	存続基盤が脆弱な種。 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	次に該当する種。 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。具体的には、分布域の一部において、次のいずれかの傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 1 個体数が減少している。 2 生息条件が悪化している。 3 過度の捕獲・採取圧による圧迫を受けている。 4 交雑可能な別種が侵入している。		
情報不足 Data Deficient (DD)	評価するだけの情報が不足している種。	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性(具体的には、次のいずれかの要素)を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていない種。あるいは確認例が極めて少なく、希少であるか否かも不明な種。 1 どの生息地においても生息密度が低く希少である。 2 生息地が極限されている。 3 生物地理上、孤立した分布特性を有する(分布域がごく限られた固有種等)。 4 生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている。		
地域個体群 Threatened Local Population (LP)	その種の国内及び愛知県における生息状況に鑑み、岡崎市において特に保全のための配慮が必要と考えられる特徴的な個体群。			